

群馬県議会 リベラル群馬

後藤かつみ

県議会だより

vol.11

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@yahoo.co.jp

<http://www.ccrgoto.com/>

公共投資のあり方の転換を提言

リベラル群馬、平成22年度予算への提言書を提出

逢坂誠二衆議院議員来県！

真の地方分権の推進を訴える

12月9日に、リベラル群馬の要請に応え、民主党地域主権室長・逢坂誠二衆議院議員が来県。

分権の方向性を以下のように抜本的に転換することを訴えました。

①市町村を重視した上で、市町村が出来ないことを県、県が出来ないことを国が行うという「補完性の原則」を徹底することにより、身近な自治体に権限を移し、

国の出先機関等を縮小・廃止していく。
②財源については、「ひも付き補助金」を廃止し、自治体の裁量で使える「一括交付金」とする。

③これまでの画一的な国土政策が、都市部への集中と地方の衰退を生んだ反省に立ち、地域の特性を活かした地域振興政策「みどりの分権政策」を推進する。

リベラル群馬の次年度予算「対案」を提言

逢坂氏は地方分権が本格的に進み、予算も条例も国の指針ではなく地方が自分の頭で考えて作る時代が到来し、地方議員にも政策立案能力が問われることになると指摘しています。
リベラル群馬は、次年度予算に向け、これまでの要求項目を羅列するだけの予算要望書を改め、「自分達が政権を担った場合には、公



リベラル群馬の平成22年度予算に向けた提言書を大澤知事に提出
後藤は提言書全般を作成している

権改革の方向性について 逢坂誠二 衆議院議員を招いて



民主党地域主権室長・逢坂誠二氏を招いて、今後の地方分権の方向性について学習会を開催

共投資のあり方など予算を抜本的に転換する」ということを意識

した「対案」形式の提言書を12月14日に提出しました。

平成22年度予算に向けた提言書の主な概要

1 地場中小企業対策への提言

新技術・新製品開発、販路開拓を積極的に支援し、「伸びる芽」を伸ばす。
一方で、経営危機にある企業に対しては思い切った優遇措置のある制度融資で下支えする。

2 雇用対策への提言

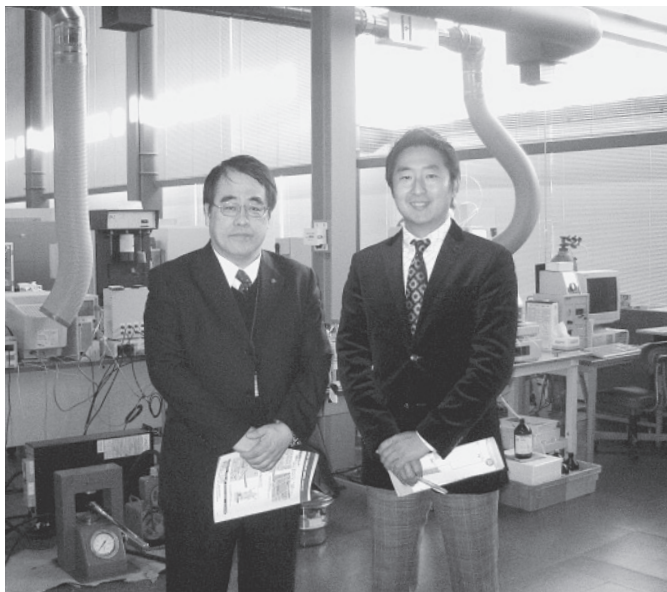
農林業や福祉などの人材不足分野に労働力を「誘導」していく施策を強化。
失業者を「弱者」と捉えず、就業相談と職業訓練を実施し、より働きがいのある就業に結びつける雇用政策へ転換。

3 公共投資のあり方への提言

環境（太陽光発電など）、農林業などの「新たな成長分野」に重点化した公共投資へ転換。
公共事業についても、舗装補修や除草など「生活密着型」事業の比率を高める。

4 安全安心な暮らしへの提言

本格的な自殺対策を強化し、「自殺戦争」時代に対応。
県立病院を充実し、医療の「最後の砦」を強化。



中小企業支援の最前線、群馬産業技術センターのきめ細かな技術支援の状況を視察（坂口所長と）



広島大学病院高度救命救急センターにて、医師不足に直面しながらも高度救命救急医療を担う現状を視察